

第2次 飯田市中心間地域振興計画 中期の取組（案）について

市民協働環境部
ムトスまちづくり推進課

1 第2次 飯田市中心間地域振興計画について

【基本理念】※変更なし

- (1) 中心間地域らしい、中心間地域だからできる暮らし方を実現する
- (2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる
- (3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める
- (4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す
- (5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む
- (6) 地域と行政が協働して取り組む

【基本方針】（計画期間中に重点的に取り組むこと）※変更なし

- (1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり
- (2) 中心間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり
- (3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり
- (4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり
- (5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり

【この計画により目指す10年後の姿】※変更なし

「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」

■計画期間 2019年度（令和元）～2028年度（令和10）

[前期 2019～2021(3年)・中期 2022～2025(4年)・後期 2026～2028(3年)]

2 中期計画の概要

(1) 中期の基本的方向

[背景]

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした暮らしや働き方の大きな変化
- ・オンラインを活用したテレワークの導入による若年世代の地方移住志向の高まり

[方向]

- ①新型コロナウイルス感染症の影響により、前期に実践できなかった都市部等との関係人口の創出に向けた土台づくりを進める。
- ②地方移住志向の高まりをチャンスに、移住・定住をさらに推進する。

(2) 重点取組事項

前期は、3つのアクション（7地区アクション・7地区連携アクション（1年1点型）・エリアアクション）を設定したが、中期は次の2つを柱に取組を進める。

①交流人口及び関係人口の創出・拡大

- ・地域資源を活用し、都市部住民等とのつながりをつくる取組を実践し、地域のファンづくりを進める。
- ・遠山郷・竜東・天龍峡（三穂）エリアを軸に、地域資源のネットワーク化を図り、関係人口づくりを目指したプログラムを構築し、実践する。

②移住・定住の推進

- ・地域の暮らしを体験するプログラムの実践、空き家情報の集約と提供、暮らしの世話人などの受け入れ態勢により、移住・定住を積極的に推進する。

(3) 目標の設定

<目標1> 新たな交流プログラムの構築

中山間地域は、住んでいる人には当たり前と感じ、気づいていない潜在的な力を秘めている。これらの力(資源)を磨き上げ、地域の魅力を発信し、地域を何度も訪ねてもらえる交流を行うなど、関係人口を増やす取組を進めるため、新たな事業体や既存のまちづくり委員会を始めとした団体が主体となり、地域資源を活用したプログラムの構築と実践を行う。

目標名	目標値
新たな交流プログラム数	7プログラム

<目標2> 移住定住の推進

コロナ禍において、働き方や暮らし方に対する企業や個人の意識に変化が起きており、地方暮らし志向が、これまで以上に高まってきている。こうした背景を追い風に「田舎へ還ろう戦略」をさらに推進し、中山間地域への移住定住を推進する。

目標名	目標値
田舎へ還ろう戦略により5人以上の移住者の誘致が実現した中山間地区数	7地区

※いいだ未来デザイン 2028 基本目標9の指標を引用。

(4) 中期における具体的な事業展開

暮らしの良さを高めていくための取組を、市の各分野別計画と連携して進める。

また、中期4年間における具体的な事業は、次の4つの視点で、地域、行政、関係団体など様々な皆さんとの協働により事業推進を図る。

- ①今住んでいる人たちの暮らしの良さを高めていく
- ②関係人口を増やす
- ③移住・定住を増やす
- ④中山間地域だからできる産業おこし

【計画に基づき実施する予定事業(市)】

- ・中山間地域振興補助(定住補助・振興補助)
- ・地域おこし協力隊の導入
- ・お試し暮らしの実践
- ・近居・同居支援事業
- ・空き家活用補助
- ・農村起業家育成スクールの実施及び起業支援
- ・オンライン等による移住相談窓口の設置・就業相談、地区と連携した情報発信